

# 被爆75年・2020年を核兵器のない世界への歴史的前進の年に 核兵器禁止条約に参加する非核平和の日本を実現しよう

2月3日～4日に開催された日本原水協全国理事会の決定は冒頭「大国の横暴を許さず、21世紀の平和と安全、地球環境を守る市民社会の行動がひろがっている。被爆75年である2020年を「核兵器のない平和で公正な世界」への歴史的前進の年とするために、3・1ピキニデーを跳躍台として、NPT再検討会議(4～5月)とニューヨークでの原水爆禁止世界大会(『世界大会一核兵器廃絶、気候の危機の阻止と反転、社会的経済的正義のために』)、被爆75年の広島・長崎、秋の国連総会を節目に、世論と運動、共同を前進させよう。」と呼びかけました。

2016年4月、「人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。」として「平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないよう」「命輝く青い地球を未来に残す」ためにと被爆者が提起した「核兵器廃絶国際署名」がゴールの年を迎えます。その間2017年7月には、人類史的な成果と言われる核兵器禁止条約が実現し、いま81カ国が賛同し、35カ国が批准し、50カ国の発効へと国際政治大きな流れをつくっています。また、昨年11月に来日した教皇フランシスコの「核兵器についてのメッセージ」は、その流れと運動に大きな力を与えています。一方、小型核搭載の潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)配備を発表した核大国アメリカのように核保有国や同盟国の動きがあります。その逆行を止め、核兵器のない世界へ、世論と運動の結集へ、被爆国の運動の特別な役割が求められています。

## 抗議文

アメリカ合衆国大統領  
ドナルド・トランプ 殿

小型核搭載の潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)配備に断固抗議する

米国防総省は2月4日、低出力の小型核弾頭を搭載した潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)を海軍が実戦配備したと発表した。

この配備は核兵器の使用態勢を強化するもので、世界に重大な惨禍をもたらしかねず、断じて許されない。

NPT第6条の定める核軍備競争の早期の停止、核軍縮・撤廃交渉の義務にも反し、またこれまでの誓約にも反するものである。

広島・長崎の被爆から75年、世界の圧倒的多数の国々は市民社会とともに、核兵器禁止・廃絶へと動いている。我々は、貴下が「核兵器のない世界」の流れにも逆行する今回の措置をただちに撤回し、撤去するとともに核兵器廃絶への行動を要求する。

2020年2月6日 原水爆禁止日本協議会



## 1月12日長崎市成人式典での署名

教皇フランシスコの大きな写真とメッセージより「核兵器から解放された平和な世界。」「この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。」  
「核兵器の脅威に対しては、一致団結して具体性をもって応じなくてはなりません」との言葉を掲げた。

## 1月18日「世界大会ニューヨークを成功させる長崎連絡会」結成のつどい開催

NPTニューヨーク行動へ長崎から50名近くが参加する「平和の旅へ」合唱団のうたごえで開会。「世界大会の呼びかけ」団体の一つで原水爆禁止日本国民会議議長 川野浩一さんが呼びかけ人挨拶。被爆地長崎からのこれまで以上の団結を訴えました。

続いて核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ実行委員長の朝長万左男さんが「被爆75周年目を核なき世界の新たな起点にしよう!」のテーマで基調報告しました。

講演はカトリック長崎大司教区司祭で元長崎純心大学教授の山内清海さん。

今注目の「教皇メッセージにこめられた核兵器廃絶への思い」とのテーマで講演しました。

語り口は丁寧でユーモアがあり「アッという間の1時間だった。」という感想が多く寄せられました。

閉会挨拶では長崎被災協会長の田中重光さんが、署名数371,725筆を報告し今後の運動として、県民の会としての50万目標達成へ、賛同団体、個人の知り合いへの要請やアイデア出して取り組むことなど署名の協力を訴えました。

参加者は110名をこえ盛会、宗教者の参加

多く「メッセージ」の素晴らしさを感じられました。また長崎コース代表も参加し決意の語りました。



～ NPT 再検討会議に向けて被爆地長崎から平和の発信を～

## パネルディスカッション 「核軍縮の逆行をいかに克服するか」

日時 2020年2月23日(日) 13:00～16:00  
場所 長崎原爆資料館ホール

主催 核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会

お知らせ 2020年原水爆禁止長崎県協議会総会  
5月16日(土) 13:30～16:00 長崎市立図書館多目的ホール



2020年3・1ピキニデーパンフレットが届きました。活用ください  
世界大会ニューヨークの特徴、核兵器をめぐる内外の最新情勢の学習、  
「ヒバクシャ国際署名」の共同や被爆者、核被害者の思いも紹介

## 「ヒバクシャ国際署名」

ゴールの年 署名行動を

1月9日佐世保での署名行動の様子。トランプは「中東での戦争やめよ」「戦争反対」と訴え86筆が寄せられた。

